

F 1 家政系短大における教育に関する研究(第1報) 関東における短大の概要  
共立女子短大 ○田中直義、目白学園短大 中島明子、大妻女子大 大森  
正司、岡本順子、東農大 加藤みゆき、岐阜大 長野宏子、日本女子大  
湯本貞子、東京家政大 石久保鈴子、 西田寿美

目的 家政学は未萌芽とも、未分化ともいわれ、その役割は重大であるにもかかわらず軽視され、依然、学問としての確立が困難な分野である。しかしながらここで教育されている学生は大半が女子であり、また、その大半は短大で教育され、学んでいるのが実態である。昭和67年に18才人口が最高に達し、以後漸減することを考慮すると、より魅力ある家政系短大の教育について考察する事は意義ある事と考える。この様な点を鑑み、ここでは関東における家政系短大の教育について現状を調査した。

方法 関東地方に存在する家政系短大の昭和58年度カリキュラム等を記述した学生要覧、文部省学校基本調査報告書、受験雑誌の学校案内等を資料とした。各学校、学科、コースにそれぞれフェースコード番号を付して分類した。またカリキュラム中の各学科目名を分類の後、それぞれに4桁のシソーラスコード番号を付して学科目分類表を作成した。例えば食品化学(講義)は0010、被服構成学実習は1103とした。それぞれをマークカードに記入し、外国文献社製パスキーⅢ型機により処理した。

結果 学生要覧の回収率は60%であった。家政系短大の大部分は戦後の学制改革時および経済高度成長期に設立されていること、各短大における家政系の学科は複数(2~3)のコースを有していることが明らかとなった。